

## <東海テレビ かわら版>

2020年『日本民間放送連盟賞』

東海テレビ制作の作品が入賞

<CM部門> 3年連続して最優秀賞を獲得！

【最優秀】公共キャンペーン・スポット「この距離を忘れない。」

【優秀】企業CM／割り切れない日々に

<番組部門／テレビエンターテインメント番組> 優秀賞を獲得！

【優秀】権藤 ゴンドウ 雨、ゴンドウ

～壊れた肩が築いた“教えない教え”～

本日、日本民間放送連盟の理事会において、東海テレビ制作の3作品の入賞が正式に発表されました。公共キャンペーン・スポット「この距離を忘れない。」が、CM部門で最優秀賞に、企業CM「割り切れない日々に」が優秀賞に選ばれました。さらに、番組部門・テレビエンターテインメント番組では、「権藤 ゴンドウ 雨、ゴンドウ～壊れた肩が築いた“教えない教え”～」が優秀賞に選ばれました。

CM部門で最優秀賞に輝いた「この距離を忘れない。」は、世界中に影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症によりあぶり出された、様々な「距離」について描いています。変わり果てた街と報道現場、妊娠中の妻を守るために別居を選んだ新婚夫婦、大人よりもコロナ禍を冷静に受け止める小学5年生、政治と国民の距離について考える日本人女性、職業差別を感じたスナックのママ、そして介護施設。審査会では、「それぞれのストーリーを際立たせる映像の編集が巧みで視聴者の心に刺さる。一人ひとりにコロナ禍がもたらした「距離」の意味を考えるきっかけをつくった」と高く評価されました。

プロデューサーの桑山知之は、「このような荣誉ある賞に2年連続で選んでいただき、誠にありがとうございます。撮影を相手に任せるなどリモートで取材した本作品は、対面取材を基本としてきた私たちにとって挑戦でした。また、物理的な距離だけでなく、時に心理的な距離が生まれたり、苦痛を感じた人も少なくないはずですが、しかし、やがて時間が経てば人は忘れてしまいます。だからこそ、この瞬間をまるでタトゥーのように“今”として刻む必要があると考えました」とコメントしています。

また、優秀賞に選ばれた企業CM「割り切れない日々に」という作品は、江戸時代から林業の盛んな街、三重県松阪市で60年前から割箸を作り続けている波瀬割箸生産組合にスポットを当てています。かつては地元の名産品として多くの生産者がいましたが、林業の衰退や外国産の安い製品に押され、現在工場は1軒のみとなっています。しかし、この波瀬割箸は、樹齢50年以上の高級杉を使っているため、木目がまっすぐで美しい柃目で、失敗無く割り切れるのが最大の特徴です。そんな割箸の魅力を、割り切れない出来事にかけ、モヤモヤした気持ちを割り切って解消しようとアピールする内容となっています。

そして、番組部門・テレビエンターテインメント番組で優秀賞を獲得した「権藤 ゴンドウ 雨、ゴンドウ～壊れた肩が築いた“教えない教え”～」は、タイトル通り中日ドラゴンズのピッチャーとして来る日も来る日も登板し続けた権藤博さんにスポットを当てた作品になっています。引退後、先進的思考で指導者としての持論を実践し、幾多の名投手を花開かせ、その功績が認められ81歳で野球殿堂入りしました。昭和・平成と、正に日本の社会と同調するように歴史を綴ってきたプロ野球において、異端児と言っても良いスタイルを貫き通した野球人「権藤博という生き方」を通じ令和という時代も新たな物語を綴り続ける次世代の野球人、そして全ての野球ファンへの「伝言」を届けています。

■作品概要

<CM部門>

【最優秀賞】

作品名／公共キャンペーン・スポット「この距離を忘れない。」

スタッフ／プロデューサー：桑山知之(東海テレビ)

【優秀賞】

作品名／波瀬割箸生産組合「割り切れない日々に」

スタッフ／プロデューサー：岩田真理子(東海テレビ)

<番組部門／テレビエンターテインメント番組>

【優秀賞】

作品名／権藤 ゴンドウ 雨、ゴンドウ～壊れた肩が築いた“教えない教え”～

スタッフ／プロデューサー：森脇淳(東海テレビ)

以上